



蘇るオオカミ

和歌山大学・東京藝術大学研究陣が協力
ふくしま再生短信 2015 11/10 (第8号)



加藤久美さん

和歌山大学観光学部
地域再生学科教授

(副学部長)の久美さんは、2012年の暮れ「保存状態がよくない」という山津見神社宮司夫人の懸念を聞き、サイモン・ワーンさん(同学部特任助教)の撮影協力を得て全237枚のオオカミ天井絵のデジタル記録に取り組んだ。2013年春、写真集完成直後に神社が全焼し天井絵を気遣っていた夫人もこのとき亡くなった。

【カット写真(左上から時計回り)】復元されたオオカミ天井絵の実例1、同2、同3、復元を指導した東京藝術大学准教授・荒井経さん、大学院生らの報告、山津見神社氏子総代・菅野永徳さん、和歌山大教授・加藤久美さん(左)と同助教・サイモン・ワーンさん。【背景写真】焼失前のオオカミ絵写真集(手前)と復元した天井絵。

2015年10月24日午後1時30分、東京藝術大学で「山津見神社オオカミ天井絵復元・完成記念フォーラム」が同大学大学院文化財保存学保存修復日本画研究室・准教授荒井経さんの企画により開催された。

フォーラムの冒頭「プロジェクトの背景と趣旨」の報告で加藤久美さんはサイモン・ワーンさんと共に、本事業は三井物産環境基金の助成を得、NPO法人「ふくしま再生の会」、佐須地区の皆様との協力を得て進め

てきたこと、オオカミ絵の復元は百年後の未来を創造する事業であると述べた。続いて荒井経さんは、オオカミ天井絵は信仰の継承としての民俗文化財であり人とオオカミが共に生きる営みの継承が基本、まず100枚の復元が成り、続いて残り140枚の復元を進めると述べた。

再生の会理事・事務局長二宮克彦さん「福島は今・現状と今後について」、藝大大学院生のみなさんほか「作品紹介と制作者による

解説・コメント」、村田歴史みらい館副参事石黒伸一郎さん「地域文化と保存の意義」、などの報告のあと山津見神社の氏子総代・菅野永徳さんから「奉納していただく一枚一枚の天井絵に感動があります」と心からの謝意が表明された。

会場には嘗て山津見神社の禰宜さんを勤めていた久米順之さん(寒川町観光協会事務局長)が駆けつけて復元事業へ静かな声援を送っていた。

(撮影・文責:若林一平)